

第9回 看護学研究科セミナー実施報告

日時：令和4年5月26日（木）9：00～11：00

場所：島根県立大学出雲キャンパス 217 講義室 リモート開催（Zoom）

講師：松下由美子氏 佐久大学看護学部・大学院看護学研究科 客員教授
日本 NP 教育大学院協議会(理事・副会長)



テーマ：高度実践看護師の現在と展望

～今後への期待と課題・実践に活かす研究への取り組み～

参加者：37名 研究科生13名（前期9名、後期4名）、教員22名 職員2名

アンケート結果：回収は34名(91.9%)で、回収内訳は研究科生13名（後期9名、前期4名）、教職員21名でした。回答者のほぼ全員が「内容への興味・関心があった」「どちらかといえば興味関心があった」と回答し、今回セミナー内容への興味・関心は高かったようです。セミナー内容の満足度は大学院生、教員とも高い評価でした。また、今後へ活用においても全て「活用できる」「どちらかといえば活用できる」との回答であり、今後へ活用ができるとの評価でした。

自由記載（一部抜粋）では、研究科生は「島根を含む僻地では医師不足に代表されるような住民の医療へのニーズは高まる一方だと思う。そのような中、一定の経験・教育を受けた看護師がニーズに応えられることには大きな意義があると思う。ニーズを顕在化させ表現できること、医師の既得権益を侵害しないことが証明できることなど地道な立法事実の積み重ねをするしかないということ強く感じた。」「今後の展望や課題が明確で、自分に課される役割や方向性についても整理できた。」「日本もアメリカのようにNPの存在が大きく、身近に感じてもらいたい。NPのことを学ぶ機会が増え、NPを目指す人が増え実績が増えていくとよいと思った。」などがあった。また教職員からは、「NPの学生が現場で直面している課題について、知る機会となった。本学に進学して学び資格を得た学生が、志を実現できるための支援の充実についても、大学として尽力する必要があるのではと感じました。」「NPの制度、今後発展していくための課題などの全体像を知ることができた。NPコースで学ぶ学生が看護師として働く上で感じておられる苦悩は私の日常では知ることのできない話だったが、今社会が抱える喫緊の課題のように感じた。」「NP養成を行い輩出していくことの意義を再確認しました。県内のNP数を増やすことで認知度やNP活動の効果を広めていくことが重要だと感じた。また病院所属でないNP学生の修了後の研修制度について検討しなくてはいけないと強く感じている。」「課題研究の進め方について、示唆をいただきました。」など多くの感想が寄せられ、解決すべき課題の共通認識につながる有意義なセミナーとなりました。

なお、本セミナーは杉谷藤子大学院教育奨学金事業として開催されたものです

